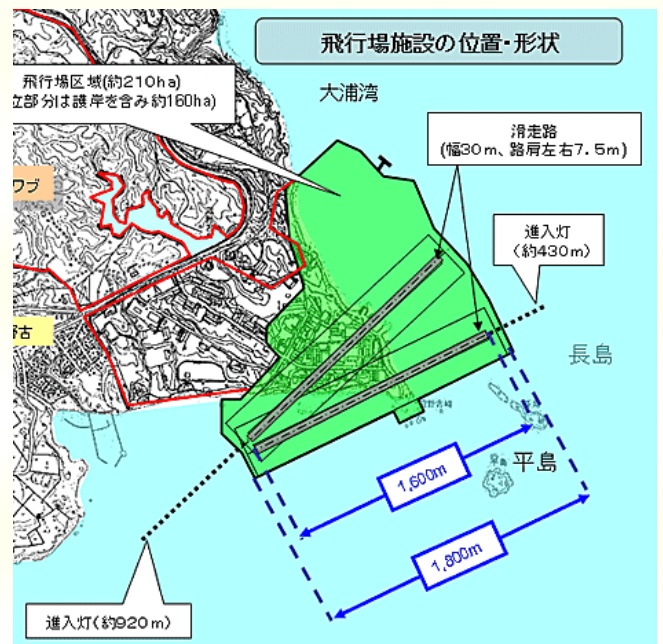


●CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です●

シリーズ 分かり易い土木 第1回 空港の埋め立て

「土木のことは」のシリーズが終了しました。今回からは読者からの質問コーナーで取り上げた土木の用語について、簡単な説明をしていきます。第1回は空港の埋め立てです。

日本では新設の空港は海を埋め立てて造る事例が増えています。関西国際空港、中部国際空港などがそうです。日本では空港を作る用地を陸地で確保し難い事情があります。空港を設置すると騒音の問題が生じますので、離着陸をする航路の下に市街地が当たらないように選定すると山の上で作るか、海の上で作ることになります。山の上で作った事例としては鹿児島空港、広島空港、岡山空港などがあります。質問コーナーで取り上げた沖縄の辺野古地区の埋め立てはまさに海を埋め立てて造る空港です。市街地の騒音対策のためにV字滑走路を計画しましたが、大浦湾側に軟弱な地盤があり、土砂で埋め立てをただけでは長期にわたって沈下するので、予め砂杭を打設して沈下を促進するという工法がとられる予定になっています。サンドドレーン工法と言って軟弱地盤上に埋め立てをする時に採用される一般的な工法ですが、これだけ規模の大きい砂杭打設は珍しい事例になります。



防衛省・自衛隊 HP より

(理事・事務局長 内藤 堅一)

Vol.73 コンテンツ

巻頭言	「緊急事態宣言」の発令に思う	田中 努	2
コラム	新型コロナウイルス問題で考える中国の光と闇	藤本 貴也	3
身近な土木遺産シリーズ	第4回松平伊豆守信綱と野火止用水と金鳳山平林寺	田中 努	5
部門活動紹介	小学校出前授業	岩佐 宏一	8
会員からの投稿	故郷が教えてくれたことー共生(ともいき)の大切さー	大田 弘	10
事務局通信			12

「緊急事態宣言」の発令に思う

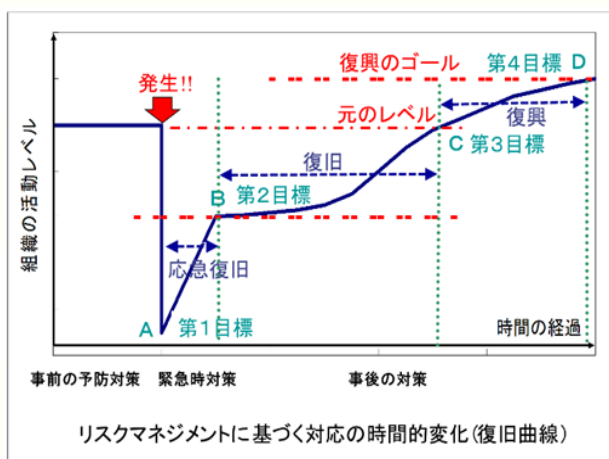


シビルNPO 連携プラットフォーム常務理事 土木学会連携部門長
土木学会 教育企画・人材育成委員会 シビルNPO 推進小委員会 委員長

メトロ設計(株) 技術顧問 田中 努

2020年4月7日、「緊急事態宣言」が発令されました。大都市圏の7都府県を対象に、5月の連休明けまでの約1ヶ月間、医療関係へのいくつかの強制と、人の移動の自粛要請です。

そこで思うのが下図。リスクマネジメントやBCPでお馴染みの「復旧曲線」です。



1. 耐震と防災とリスクマネジメント

私は、耐震設計技術者で、阪神淡路大震災の直後に、めちゃくちゃになった街を歩き、人の力の限界を体感しました。その後、レベル2外力の存在を前提に、構造物は壊れるが市民社会の被害をある範囲に抑える「耐震設計」と、併せて、被災後も道路や行政の機能を維持するための「防災計画」が広がりました。

一方、私は、品質管理の仕事もして、協会のマネジメントシステム委員会の委員長もしていました。コンサル業務は、品質管理より、プロジェクトマネジメント(PM)の方が馴染み、その延長でリスクマネジメント(RM)も学びました。それぞれ、アメリカの大恐慌時代やヨーロッパの大航海時代に始まる世界の知恵です。

2. 損害をマネジメントする！

さて、左の図ですが、大地震でも大洪水でも、新型コロナウイルスでも、災害が発生してからの復旧・復興過程は、概ねこうなります。そして、A～D点の位置(時期とレベル)で、私たちが受ける損害が変わります。

A点は、事前対策をどこまでして、レベル低下をどの程度に抑えるか。例えば、社員の安全確保と安否確認だけでは、事業の再開が遅れ、会社が潰れるかも。資金と相談しながらの決断です。

B点は、「危機管理」の結果です。事前対策の実効性と、社長等のタイムリーで的確な指揮で決まります。「緊急事態宣言」はこれの一部。

C点は、いつまでに元に戻るかの決意。例えば、神戸港は取引量が戻るのに20年掛かりました。復旧を待ってられない会社が、他の港に移り、それが「日常」になってしまったからです。

D点は、リスクマネジメントの「ツボ」。私は、神戸に、震災前も後も、度々行きました。被災した方には申し訳ないですが、「前よりいいじゃない！よかったね。」と言いたくなります。「ひどい目に遭ったのに元通り」では、元気が出ません。2015年国連防災会議の仙台宣言「Build Back Better」です。

新型コロナウイルスの猛威を乗り越えたら、様々な災害に思いを巡らせ、A～D点の各目標を定め、「事前対策」と「危機管理」の計画(BCP)を見直さなければ・・・と、改めて思います。

新型コロナウイルス問題で考える中国の光と闇

シビルNPO 連携プラットフォーム 理事
 NPO 全国街道交流会議 代表理事
 パシフィックコンサルタンツ株式会社 特別顧問
藤本 貴也



最近の新聞や雑誌等では専らコロナ問題がその中心テーマになっている。中央公論4月号トップ記事の鼎談で西洋史が専門の木村凌二先生（東大名誉教授）の、「中国政府が被害を最小限にとどめるような形でこの問題をうまく処理した」とすれば「今度は、社会主義型の独裁を見直すべきだ、という意見が出て来ないとも限らない」、即ち「中国は、武漢を封鎖したのをはじめ、様々な規制を強権的に実行しました。自由主義陣営では限界のあるそうした行動により「見えざる脅威」を封じ込めることができたということになれば、現代の独裁の持つ強みのようなものが、新しく世界史に提示されることになるかもしれません。」との発言が眼にとまった。

また米スタンフォード大学フーバー研究所上級研究員で有数の歴史家のニール・ファーマン氏からの「コロナ禍封じ込めで民主制とIT 全体主義のどちらに軍配が上がるのかが重要です。米欧が都市封鎖など強硬策をためらい感染拡大を許したのに対し、中国は個人の権利を無視した強硬策で奏功しつつあるようです。それが最終結果であるのなら、IT 全体主義が正当性を得てしまいます。」（4月12日読売新聞）との更に断定的な発言を聞き、今回のコロナ問題が投げかけたイデオロギー的な意味について改めて考えさせられた。

中国が世界に先駆けて感染爆発を起こしたがゆえに、早々にピークアウトして鎮静化した。その後世界が一周遅れで感染爆発を起こしたがゆえに、中国は救世主のごとき顔をして欧米やアジア・アフリカに医療用機材の提供や医療関係者の派遣を行っていることから、この意見に同調する向きもあるかもしれない。

確かに1月23日武漢市封鎖以降、ほぼ2か月で鎮静化できたことは、一党独裁国家ならではの強権によるところが大きい。ただ忘れてならないのは一党独裁国家であるがゆえに起こりやすい情報操作（隠蔽）が、中国の初動対応を遅らせ感染爆発をもたらすとともに、世界各国の初動対応まで遅らせパンデミック（世界的大流行）を引き起こしたということである。

12月8日武漢市で原因不明の最初の肺炎患者が報告されてから23日も経過した12月31日になって初めて世界保健機構（WHO）に報告されたが、その後も武漢市両会（人民代表会議、政治協商会議/1月6～10日）、湖北省両会（1月11日～17日）の重要会議が続いたことから感染症についての公表が後送りされた。また、WHOに報告された前日12月30日には、武漢市の病院に勤務する李文亮医師が、自分が勤務する病院で「SARS（2003年中国などで大流行した重症性急性呼吸器症候群）が確認された」とする内容を、LINEで仲間約150人に流したところ、翌日当局から呼び出され、デマを流したとして「自己批判文」を書かされその後「訓戒書」に署名させられる（文芸春秋四月号「習近平「恐怖支配」が招いた幹線爆発」城山英巳より）という、隠ぺい工作も明らかになっている。

この間、習近平総書記は1月17日にはミャンマー訪問、19日から3日間は雲南省視察と危機感がないまま事態は推移した。そして18日には武漢の集合住宅「百万亭」において4万世帯が料理を持ち寄る大宴会（万家宴）を当局が放置し感染拡大に拍車をかける失態も引き起こした。さらには1月10日頃から25日にわたる中国の大型連休である春節において延

べ30億人ともいわれる大移動を許し、中国だけでなく世界に感染を蔓延させた。

ようやく習近平総書記から「感染蔓延の阻止」「迅速な情報開示」の指示がされ、本格的な対応が始まったのは、最初の肺炎患者報告から1か月半後の1月20日であった。

SARS コロナウイルスが2002年11月広東省から始まり世界に蔓延、8,096人が感染、774人が死亡した（WHO発表）時も、WHOへの最初の報告は2003年2月と3か月も遅れた。更に北京の軍事病院では感染者数を過少に発表していたことが発覚して国際的な批判を浴びている。また感染症以外にも、2011年の浙江省温州市で発生した新幹線事故において事故車両がすべて事故現場に埋められ、未だ事故の原因が明らかにされていないことなどをみると、このような情報操作・隠ぺい工作は、一党独裁国家が構造的に抱える病理ではないかと思う。

インフラの分野で遭遇する危機管理は、災害・事故・事件が対象となる。万一発生した場合、初動対応の良否がその後の問題解決のための時間・エネルギーに大きな影響を与えることは過去の経験からも自明である。また抜本的対策としては徹底的な原因究明と再発防止策の策定が欠かせない。今回の新型コロナウイルス問題を通じて得た教訓は、「社会主義型の独裁」国家は感染症との或る段階以降の戦争においては強力な規制により国民を統制し、早期に問題を解決することには向いているが、戦争が大きくなる前にその芽を摘むこと（事前防止/初動対応）や、原因究明を通じて再発防止策を策定することには不向きな仕組みであることを銘記すべきだと思う。

今回の武漢発の新型コロナウイルス問題の原因は、海鮮市場の野生動物からの感染、武官

の研究所から流出等の諸説が報道されている（WILL5月号「新型ウイルス 武漢の研究所から流出濃厚」米国人人口調査研究所長ステイブン・モッシャーより）ことから、欧米各国では武漢の研究所への立ち入り調査や中国のウイルス発生についての透明性の確保などの原因究明を求める動きが出ている。しかし中国政府は一方的に否定するとともに、3月12日には中国外務省の趙立堅副報道局長が根拠不明の「米軍持ち込み説」を唱えるなど（崔天凱駐米大使が5日後に否定）、中国政府の原因究明への真摯な姿勢は感じられない。

資本主義社会と共産主義社会とのイデオロギー論争はソ連の崩壊等で概ね決着がついたが、冒頭にも紹介したように中国の台頭で国家独裁主義的資本主義と自由（民主）主義的資本主義の新たな対立軸が出てきている。自由主義陣営においては国民の価値観が多様化する中で一定の理念に基づく政策がコンセンサスを得にくくなり、バラマキ型のポピュリズムが世界的に台頭しつつある現状をみると、その行く末は必ずしも楽観できない。また日本の場合、戦争のような超非常時を想定した体制・制度についての議論はこれまでタブー視されてきた。大災害に加え第3次世界大戦にも例えられる今回のような感染症が定期的に到来する可能性が高いことを考えれば、ソフト・ハード両面での超非常時に対する事前対策、有事に至った場合における強力な私権制限やこれに伴う補償・支援の有り方に関する制度を整えることなどにより自由（民主）主義的資本主義の弱点を強化し、「光」よりはるかに大きな「闇」を持つ国家独裁主義的資本主義への流れを変える必要があると思う。

（2020年4月22日付日刊建設工業新聞掲載寄稿に加筆修正のうえ再掲した）





松平伊豆守信綱と野火止用水と金鳳山平林寺

シビル NPO 連携プラットフォーム常務理事 土木学会連携部門長
土木学会 教育企画・人材育成委員会 シビル NPO 推進小委員会 委員長

メトロ設計(株) 技術顧問 田中 努

私の住まいの近くに「平林寺」があり、その北側に「野火止用水」が流れています。多くの場所で緑道になっていて、気持ちの良い散策路です。水の流れと緑の木々は、安らぎの必須アイテムです。

1. 野火止用水とは

「野火止用水」は、1655（承応 4）年、川越藩主松平伊豆守信綱により、野火止台地の新田開発<資料③>として開削された用水路で、<図 1>のように、「玉川上水」から、野火止台地を経て、荒川支流の新河岸川までの全長 24km に及びます。「玉川上水」と「野火止用水」の分水割合は「七分は江戸へ通じ、三分は信綱へ賜はり、領内へそゞげり（新編武蔵風土記）」と言われ、野火止の開拓民や移転してきた平林寺、陣屋等の貴重な飲料水・生活水として使われていました。

<資料①>



図 1：野火止用水の位置<資料②に加筆>

2. 野火止用水の歴史

地元、新座市のまとめ<資料④>によると、以下のようです。

徳川家康が江戸城へ入府してから 50 年程が経つと、江戸の人口増による水不足がおこり、1653（承応 2）年、幕府は多摩川から水を引く「玉川上水」を掘ることにしました。総奉行として老中の松平伊豆守信綱（当時川越藩主）が指揮し、難工事に人材投入をしたようで、翌 1654（承応 3）年に完成しました。

総奉行の信綱は、その功績が認められ、領内の野火止に「玉川上水」の分水を許されました。翌 1655（承応 4）年の 2/10～3/20 のたったの 40 日間で、関東ローム層の乾燥した台地、生活用水に難渋していた野火止の地に、用水が流れて来たとのことです。用水路は、素掘りにより開削されていますが、土地の低いところには「版築法」などにより堤を築いたそうです。費用は三千両とのこと。

■版築法（はんちく）とは

中国から伝わった壁や土壇の築造法で、板で枠を造り、中に小石・石灰・ニガリ等を混ぜた土を少しずつ入れて枠で突き固め、塊にする工法のこと。現在、日本でも、左官工法の 1 つとして残っている。「版」は木の板で造られる枠、「築」は枠を意味し、城壁・河道堤防・軍営壁壘などの築造に用いられ、唐以前の万里の長城はこの工法によるという。

川越藩は、野火止の耕地を短冊形に区画して農民を入植させ、新しい 4 つの村、野火止・西堀・菅沢・北野（新座市）を創り、さらに周辺の他領 16 村をはじめ、松平家の一門や家臣まで開発に参加させるという大規模な新田開発を行いました。

その後、1662（寛文 2）年に新河岸川に懸樋をかけ、用水が対岸の宗岡（志木市）に引かれ、

また、分水が館村（志木市）や宮戸新田（朝霞市）の水田耕作にも使用されるようになりました。こうして「野火止用水」は飲料水だけでなく、田用水としても利用されるようになりました。豊かな水を得た人々は、この用水に深く感謝し、後世に「伊豆殿堀（いすどのぼり）」と呼んだと言われます。「野火止用水」は、開削以来、台地と人々の心を、その清らかな流れで潤してきたようです。

3. 金鳳山平林寺

「平林寺」は、＜資料⑤＞によると、1375（永和元）年、南北朝時代に、武蔵国埼玉郡（さいたま市岩槻区）に創建されたそうです。

戦国時代には、豊臣秀吉による小田原征伐の戦禍を受け、多くの伽藍を失い、聯芳軒（れんぼうけん）が辛うじて焼け残る有様でした。その後、関東に領地替えとなった徳川家康が鷹狩に訪れ、休息のために聯芳軒に立ち寄ったそうです。軒主から由緒を聞いた家康は、「平林寺」の再興を約束、復興資金と土地を寄進しました。さらに鉄山宗鈍禅師を平林寺住持として招聘し、1592（天正20）年、「平林寺」の中興が果たされ、新たな歴史を刻んでいきます。

家康の関東入部を共にした家臣の大河内秀綱は、「平林寺」の大檀那となって再建を行いました。秀綱は、野火止用水を開削した信綱の祖父です。信綱は、祖父・父を「平林寺」に弔い、代々に渡って菩提寺としてきました。その信綱自身が1663（寛文3）年に没し、「平林寺」を岩槻から野火止に移し、「平林寺堀」を作って、水を引いたとのことでした。

4. 野火止用水をあるく

「野火止用水」は、戦後の復興と高度成長に伴って汚れ、東京の水不足で「玉川上水」からの分水も止められました。しかし＜資料⑥＞によると、文化庁により2000年度から実施された「農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する調査研究」によって、全国180カ所の保全すべき重要地域の1つに選定されました。信綱が開削した24kmの内、現在も18.6kmに流れが残されています。

それでは、現在の「野火止用水」をご紹介します。＜資料②＞に「野火止用水をあるく」お

勧めルートが示されていますので、是非ダウンロードして見てください。＜図2＞のように駅からのルートも示してありますが、私は、特に赤線の区間をお勧めします。

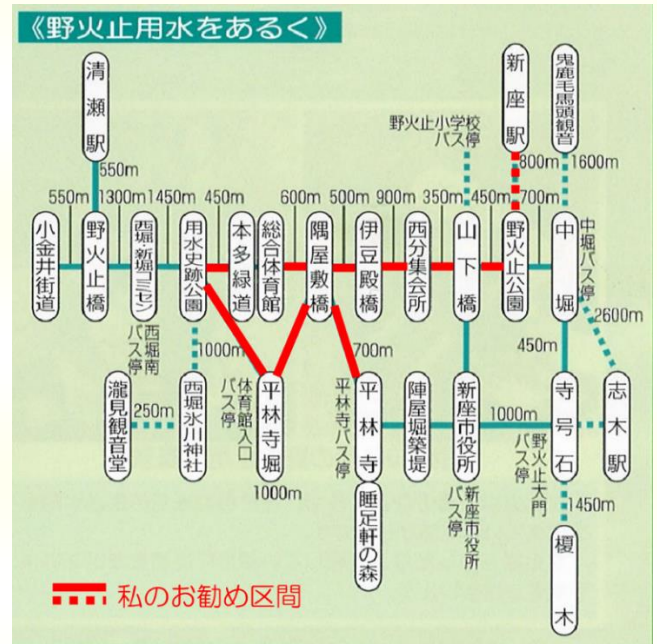


図2：野火止用水へのアプローチ＜資料②に加筆＞

まず「ああ、用水なんだ」と感じるのが、＜写真1＞の「用水史跡公園の分岐点」。「平林寺」の北を流れていく本流と、平林寺境内に導かれる「平林寺堀」への分岐です。ここは、幅が狭く、いつも勢いよく流れています。

＜写真2＞は、「平林寺堀」で右は境内。新緑の木々を吹き抜けるそよ風の中を、用水の水音を聞きながら歩く、気持ちの良い堤です。

＜写真3＞は「伊豆殿橋」。幅員は対向2車線、橋長は用水幅を絞って2m弱。

＜写真4＞は、平林寺の北側を流れる「野火止用水」の本流。左は民家で車は滅多にこない歩き易い道。老夫婦の散歩、家族連れ、ジョギングなど、様々な人に好かれています。

＜写真5＞は、川越街道の近くの野火止公園付近。この区間の法面は草木が茂っています。

＜写真6＞のような水鳥に会うことも。



写真1：用水史跡公園（本流と平林寺堀の分岐点）



写真4：伊豆殿橋から西分集会所へ



写真2：平林寺堀築堤



写真6：用水に水鳥



写真3：伊豆殿橋

写真5：野火止公園から山下橋方向を

■参考資料

- ①野火止用水～多摩川の水を野火止台地、さらに荒川右岸まで～（パンフレット）、国土交通省荒川上流河川事務所
- ②文化財散策ガイド2「野火止用水をあるく」（新座市教育委員会）リーフレット
- ③野火止新田開発関係資料、県指定有形文化財古文書（新座市教育委員会）
- ④野火止用水をあるく（新座市生涯学習スポーツ課文化財担当）：<https://www.city.niiza.lg.jp/site/bunkazai/nobitomeyousuiwoaruku.html>
- ⑤平林寺：<http://www.heirinji.or.jp/about/>
- ⑥野火止用水・平林寺の文化的景観保存計画、平成24年3月、埼玉県新座市（全160ページ）

小学校出前授業

シビルNPO連携プラットフォーム常務理事 協働推進部門長
日本ファシリティマネジメント協会 伊万マサミ 研究部会副会長
インフラメンテナンス国民会議 市民参画フォーラムリーダー

アイセイ（株） 代表取締役 岩佐 宏一



今年に入り2月の6日と13日の2日間、待ちに待った「小学校出前授業」を行った。小学5年生を対象に5・6時限目（1コマ45分×2コマ）の社会科の特別授業として『インフラとは何か』、『インフラを大切に使わないとどうなるのか』を子供たちと一緒に考えた。

約1年前の2019年1月28日にこの企画はキックオフした。

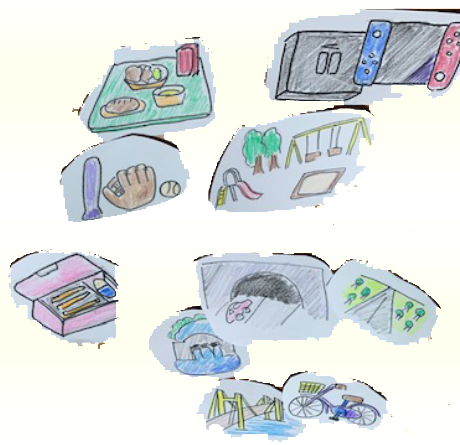
子供たちにインフラは与えられるものじゃない！自分たちのものだって知ってもらいたい！この熱い気持ちを、賛同いただいた子供向け職業体験施設で働くSさんと、どうやって子供たちにこの気持ちを理解してもらえるかを話したのを覚えている。この時から自分の凝り固まった頭（インフラはこうでこうあるべきだ！）を粉々に砕き、真正面で見えてきたインフラメンテナンスをがらり裏側から市民目線になるよう特訓が始まったことを鮮明に覚えている。

さらに2019年2月から合流した都内小学校で教鞭をとるK先生、Sさんの仲間のAさんを仲間に迎え、2020年1月の授業開催を目標に企画を加速させた。が、やはり当初からの凝り固まったわたしの企画では、K先生の理解を得られない。先生から発せられた言葉は、こどもが理解できる言葉を使い、こどもの目線で授業のシナリオを作成すること。これがとんでもなく大変だった。

ビジネスで置き換えると「ゲームチェンジ」という概念があったり、社会一般的には「も

のの見方を変える」「その人の立場になって考える」なんて言葉からやり方は山ほど出てくるが、実際やってみようとする中々手ごわい。

そもそも「インフラ」って言葉でさえ、我々は標準語のごとく用いているが、立場変われば異国のことばである。



このようなカードを作成し、このカードを2つに分けて？から始め、概ねみんなのものと個人で使うものに分けるので、「みんなで使うものがインフラなんだよ」といった感じである。

普段だったら、インフラって、橋梁やトンネル、電気、ガス…と説明を始めるが、カードを使い自ら考えながら解いていく切り口でないと、子供たちはこちらの領域に入ってくないらしい。

これが目線を変えることのようなのだ。

さて話を戻すが、小学5年生は社会科で何を学んでいるかご存知でしょうか？こちらは出前授業で「インフラ」という情報を小学生へ与えることができれば済むものだと考えていたが、とんでもない。小学校5年生になるまでに学んだ社会科、これから学ぶ社会科から、どの場面で違和感なく伝えることができるかと言ったカリキュラムも重要だ。言われれば当たり前なことかもしれないが、こちらはド素人。授業をする学年やタイミングも重要なことであることを学んだ。

4年生や5年生の社会科の教科書、学習指導要領の確認、すでに実施されている出前授業の調査、〇〇科学館といった会場視察をすることで出前授業コンテンツの構成やどのように話せば伝わるのかを、少しずつではあるが理解することができた。

毎月の打合せを重ね、やっとの思いで2019年12月にリハーサルに挑む。授業を終えた夕方に小学校へ行き、がらりとした教室で授業のリハーサルを行った。

リハーサルを数回繰り返し、撮影したビデオを見て、本番に向け修正することとなった。

出前授業本番、1年間の成果を發揮し子供たちにインフラの大切さを伝えることができるか。現場スタイルである、作業着にヘルメット、安全帯、安全チョッキ、安全靴、小物のヘッドライトや点検ハンマー、コンベックスを携えて



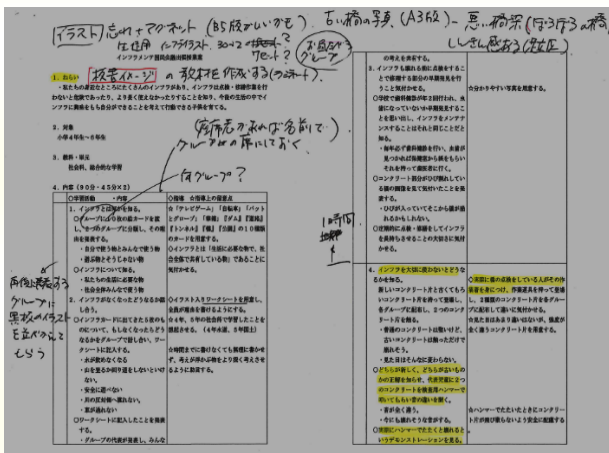
このスタイルの掴みから、子供たちの反応はなかなかで授業にすんなりと入ることができた。

インフラカードからインフラを知り、インフラがなくなったらを話し合い、インフラを点検している姿から点検や措置することで長持ちさせる意味を、そしてみんなでできることをグループワークで学んだ。1年間の成果があつという間の45分×2コマの授業となった。

子供たちから、私たちができることがあると思わなかった。インフラがないと生活が大変だということ。できることをやるというのが心に残りました。私もできることは協力していきたいと思いました。…ありがとう。

今年度も他区も含めて出前授業を拡大します。

この楽しさにご興味がある方、是非ご一緒しませんか。限られたメンバーではなく、多くの方に参加してほしいと思っております。



リハーサル時のシナリオ

1コマ45分の限られた時間のなかで、シナリオを片手に授業を始めた。同時に説明用資料をスライドで流し、本当に伝えたい箇所を計画した板書イメージを元に、黒板にフリップを貼る。この間子供たちがいるかのように質問や答えを話す。まったくの余裕がない自分に子供たちがいたらどうだったんだろう。伝えたいことが半分も話すことができないと…感じた。

故郷が教えてくれたこと —共生（ともいき）の大切さ—

シビルNPO 連携プラットフォーム前理事、個人正会員
大田 弘



私は日本有数の急流河川・黒部川沿いの山村、富山県旧宇奈月町で生を受けた。宇奈月は100年ほど前から黒部川の水力発電開発の拠点となった所で、最上流部には黒部川第四発電所（1963年完成／通称：クロヨン／殉職者数



写真1 黒部ダム 1963年完成

171名)がある。“クロヨン”が完成した時は小学5年生、小学校にあった村唯一のテレビで、クロヨン完成の様子をみんなで観たが、この工事で同級生の父親が命を落としたことも知った。当時、作文に「大きくなったら安全にダムをつくる土木技術者になりたい」と綴った。そして、1968年に公開され、観客動員733万人の空前の大ヒットとなった映画「黒部の太陽」（主演：石原裕次郎、三船敏郎）を観て感動し、土木を立志、裕次郎が演じた建設会社に入った。土木であれば“裏日本”“山村”の出身者でも都会人には負けなだらうとの漠然とした思いもあった。

入社後は、ブレーキもバックギアも持たない“暴走族”（当時は企業戦士ともいった）と化した。この45年間、故郷を振り返ることは一切なかったが、今年の7月から生活の拠点を東京から宇奈月に変えた。生まれ故郷への移住である。“田舎を捨てた”不届きものであるにも関わらず、何事も無かったかのように集落民は私を温かく迎え入れてくれた。家の周りの草を刈ったり、倒木を片付けたり、村の行事に参加するなどの日々を送っている。

これまでの人生をボーンと振り返る中で、小さい頃のことや、つい最近の事のように蘇ってくる。家の敷地内に流れている農業用水の水門を開閉させて遊んでいた時のこと。祖父からこっぴどく



写真2 敷地内の草刈り



写真3 涅槃団子作り



写真4 夕日に映える黒部川扇状地



写真5 用水路水門扇状地

叱られ納屋に閉じ込められた。この集落は水が豊富な黒部川との比高差は100mほどの隆起性旧扇状地（台地）であり、米作に必要な十分な水が得られず養蚕や煙草葉・果樹栽培で何とか生き抜いてきた。90年前に土木技術の発達、

水力発電事業との連携強化などから、黒部川からの引水により米作が可能となった。しかし、水を巡る争い（我田引水）が絶えなかったため、選ばれた数人の大人が掟に基づいて公平な水門操作を行っていたのだ。

“円筒分水槽”をご存知だろうか。“1”箇所の取水坑に湧き出る水が“3”箇所の用水路に作付面積に応じて公平に分配される仕掛けである。これによって3地区共同で取水口を集中化・大型化することで安定的な取水が可能となっただけでなく、身勝手な水の奪い合いが無くなった。

水が豊富な時の恩恵は、3地区が公平にウィンウィンとなる。最大の妙は水が少ない時には、これまた3地区が公平にガマンガマン、つまり共生（ともいき）である。

60年前に“過疎”、40年前には“中山間地”、そして20年前には“限界集落”と云う警鐘語が生まれた。高度経済成長の副作用として東京などへの一極集中が過度に進行し、この



写真6 1955年完成／東山地区円筒分水槽（国登録有形文化財（富山県魚津市））

数年、地方創生が叫ばれているが、一筋縄では行かないようである。

また、成熟社会は一見、多様化を実現しつつあるように見える。しかしそれが目先の経済的な損得に重きをおいた無味乾燥な「個人化」の進展であれば、幸せとはほど遠い社会が到来する。多様な価値観とは何でもありではない。それぞれの判断で人生を設計し、それぞれの責任で歩まなければならない。それは決して容易なことではない。これまで先人たちが力を合わせて築き上げてきた智慧から学ぶことの大切さを思い起こしつつ、共生（ともいき）の約束事（利他心／道義心）を土台とし、その上で個人個人の価値観を際立たせることができる社会を目指すべきではないだろうか。

国家や地域、人は本質的には多様である。経済効率や経済成長を優先するあまりに、多様であるべき文化や価値観があくなき利潤を追求するグローバル市場になぎ倒され、様々な矛盾が顕在化してきているのではないかと地方創生や一億総活躍、女性活躍などの目的が経済再成長を促すためではなく、それぞれが、かけがえのない人生を送れる多様な価値観が尊重される国へと豊かさの質を転換するための方策であってほしいと思う。

まさに”共生（ともいき）“の回復が国難突破の鍵となるような気がする。期待感もこめて。

結びに、昨年、アフガニスタンに凶弾に倒れた中村哲医師のことは「現地の願いは三度のご飯と故郷での平和な暮らしだけ。今、100か所の診療所、100人の医師よりも一本の用水路が必要だ」改めて重く受け止めたい。



写真7 故・中村哲医師

6月の第6回サロンは中止します。

6月9日(火)に開催を予定していました第6回サロンは中止することになりましたので、お知らせします。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中で、準備段階ではいつも使用しているちよだプラットフォームスクエアの会議室が予約受付中止になっていました。毎月、運営会議等の開催に使わせていただいている日刊建設通信新聞社の大会議室も同様な理由で予約ができませんでした。その後緊急事態宣言が発令されましたので、多くの人が集まるサロンは開催を自粛すべきと判断しました。

6月は中止し、12月の開催を目途に準備することにしましたので、お知らせします。
開催が決まりましたら改めてメールで連絡させていただきます。

事務局通信

1. 5月の会議予定

5月12日(火) 13:10~15:00 : 運営会議 **中止**

5月12日(火) 15:00~17:00 : Meeting (集中討議) **中止**

2. 5月1日現在の会員数

法人正会員 16、個人正会員 32、法人賛助会員 29 合計 77
サポーター130

事務局

お問い合わせは
こちらまで

特定非営利活動法人

シビルNPO連携プラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目13番地7

名古屋ビル本館2階 コム・ブレイン内

事務局長 内藤 堅一 : info@npo-cncp.org

ホームページ URL : <http://npo-cncp.org/>